

加古川保護区（加古川市・稲美町・播磨町）

保護司会だより

2021.9

10号



コロナ禍を超えて

神戸保護観察所長 小林孝幸

加古川保護区保護司会の皆様及び関係者の皆様には、平素から更生保護の諸活動に格別の御理解をいただき、多大な御尽力を賜っております。まずはこの紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、近年、犯罪や非行は年々減り続けており、全国の刑法犯認知件数は、ピークだった平成14年には約285万4千件であったところ、令和元年には約74万9千件となり、7割以上の減少となりました。そして、報道によれば、その後も減少が続いているとのことです。

また、犯罪を繰り返す者が後を絶たず、検挙者に占める再犯者の割合(再犯者率)が年々上昇していたことから、罪を犯した人の円滑な社会復帰を促進するため、平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律(再犯防止推進法)」が施行され、現在まで、国、地方公共団体及び民間団体が連携して再犯防止に向けた取組を進めているところですが、令和2年版「犯罪白書」によれば、平成9年以降一貫して上昇を続けていた再犯者率が令和元年はわずかに低下し、上昇に歯止めがかかったとのことです。さらに、国は「2年以内再入率(出所後2年以内に再び罪を犯して刑務所に入所する者の割合)を令和3年までに2割以上減少させる」という数値目標を定めています。基礎となる数値は20%だったので、これを16%以下にするという目標ですが、同白書によれば、平成30年に出所した受刑者の2年以内再入率は16.1%であり、4年連続で低下し、目標値にかなり近づいたとのことです。

これらはひとえに「居場所(住居)」と「出番(仕事)」の確保を合言葉にして、更生保護活動に昼夜を分かたず邁進していただいている皆様の活動の成果であり、深く感謝を申し上げます。

ただ、明るい話題ばかりではありません。昨年来、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、いまだに終息の見通しが立ちません。100年に1度の公衆衛生上の危機と言われており、不要不急の外出の自粛等が要請されるなど、人と人との交流が分断され、社会全体の絆が弱くなってしまうことが懸念されます。

「人はみな 生かされて 生きていく」

これは20年余り前の更生保護事業50周年記念事業のキーワードです。「人は一人では生きていけない。社会の中で、お互いに寄り添いながら、生かされて生きている」ということですが、コロナ禍の今こそ、この言葉が真に身に染みます。

一方、社会的に分断が進む状況下では、立場の弱い人にしわ寄せが来ます。罪を償い、やり直そうとする人たちの就労や住居の確保を困難にします。また、立場の弱い人ほど孤立しがちになり、苦しい状態なのにSOSを出せないでいる人が多くなります。

コロナ禍が続く、緊急事態宣言の発令等により対象者による対象者との面接が断続的に制限されるなど、皆様の活動にも御不自由と御不便をおかけしていますが、このような状況においてこそ、平常時以上に、対象者に寄り添い、その声を丁寧に拾い、SOSを発しているときは必要な支援につなげていくことが求められます。

現在、保護司適任者の継続的な確保、満期釈放者に対する社会復帰支援の強化等、多くの課題に直面していますが、コロナ禍を超えて、更生保護制度を更に充実させるため、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

末筆となりましたが、貴保護司会のみならずの御発展を祈念いたします。



「更生保護の仲間たち ～更生ペンギンホゴちゃんから学ぶ～」

神戸保護観察所 首席保護観察官 泉 佳孝

今や、ホゴちゃんは、大人気の更生保護のマスコットキャラクターとなっています。ホゴちゃんの更生物語では、ホゴちゃんは、昔は悪いことばかりをする非行ペンギンだったようですが、立ち直り、更生ペンギンとなりました。

でも、ホゴちゃんは一人で立ち直ったのでありません。ホゴちゃんの更生を助けた地域の支援者である更生保護の仲間たちの存在を知っているでしょうか？

クジラ先生(保護司さん)、アシカ親方(協力雇用主)です。ちなみに、ホゴちゃんのガールフレンドであるサラちゃんも、昔は非行ペンギンでしたが、更生保護の仲間に使われました。イルカ兄さん・イルカ姉さん(BBS会)、オコジョさん(更生保護女性会)です。

地域社会における温かな更生保護ボランティアの支援者たちのサポートで、ホゴちゃんやサラちゃんは更生したのです。もし仲間たちがいなければ、ホゴちゃんもサラちゃんも、社会に居場所がなく、孤立化し、また非行に走ってしまったかもしれません。

更生保護のポスターやパンフレットには、ホゴちゃん



やサラちゃんだけではなく、クジラ先生、アシカ親方、イルカ兄さん、イルカ姉さん、オコジョさんなどの更生保護の仲間たちが登場していることが多くなりました。

地域社会が、犯罪や非行をした人々を責めて、疑い、見捨てれば、彼らは孤立化してしまい、また再犯や再非行を繰り返すこととなります。何度も犯罪や非行をすれば、益々、社会から排除されていきます。犯罪者や非行を犯した人たちののけ者にすることを社会的排除といいます。社会的排除による悪循環が累犯者をつくります。犯罪の約半分は一度犯罪をした人による犯罪です。なので、

この悪循環を断ち切る必要があります。

更生保護の創始者である川村矯一郎にまつわる更生保護発祥物語をご存じでしょうか？

明治時代に静岡刑務所の副所長だった川村矯一郎は、犯罪を繰り返す吾作を改心させ、社会に送り出しました。吾作は、二度と犯罪はしまいと誓って刑務所を出ましたが、家族、親戚、友人等から見捨てられ、宿泊場所も仕事もなく、孤立化し、自らの命を絶ててしまいました。

吾作の遺書を読んで涙した川村矯一郎が金原明善の協力を得て、刑務所出所者に宿泊先と仕事を紹介する静岡県出獄人保護会社を設立しました。更生保護発祥物語では、社会的排除の問題が浮彫になっています。

一方、吾作とは異なり、ホゴちゃんやサラちゃんは、仲間たちのおかげで、更生し、幸せに生きています。

ホゴちゃんの更生物語、サラちゃんの更生物語は、私たちに吾作の悲劇を繰り返さないためにどうしたらいいのか教えてくれます。

保護司、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主などの



更生保護ボランティアが地域社会の人々を先導し、社会的排除のない明るい社会=包摂型社会をつくるのが大切なのです。

また、包摂型社会の実現は、地域社会全体の問題ですので、更生保護ボランティアだけではなく、地域社会の関係機関や諸団体や一般市民の支援、協力も必要です。

そして、加古川市再犯防止推進計画は、その具体的な方向性を定めたものです。

今後とも、加古川保護区保護司会の皆様には、地域社会に根付いた益々の更生保護活動への取組をよろしく願っています。

◆ 令和3年度 加古川保護区保護司会総会 ◆ (中止 - 書面表決)

会長 今川 裕

平素は加古川保護区保護司会へのご支援ご協力ありがとうございます。

前年に引き続き『新型コロナウイルス』による政府の三回にわたる『緊急事態宣言』により、今年も感染拡大防止の観点から『理事会・常務理事会』等は感染対策をとり実施しましたが、年度初めの最高の決議機関である『総会』は『書面表決』となりました。重要な案件も多々あり、保護司全員の意見を交換し合ういい機会だったのに、とてもとても残念な年間活動のスタートとなりました。誠にこのような結果になり申し訳ございませんでした。

その書面表決の結果を報告しますと(4/28 現在)保護司数 93 名中 83 名の保護司の方から 89.2% の返信がありました。

第1号議案から第4号議案まではほぼ全員の賛成の評価を得ましたが、1 件のみ反対の意見をいただきました。常務理事会でその反対意見をそのまま公開し(名前を伏せて)提言と質問など協議し了解を得ました。貴重なご意見誠にありがとうございました。

まだまだこの新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、多くの未知の部分もありますが、今後の研修会や行事について感染対策を取りつつ、対象者への面接指導や日々の活動をコツコツと積み重ね『犯罪防止 再犯防止』の責務を果たしたいと考えます。

そして今年も7月1日恒例の『社会を明るくする推進運動』の大々的な駅頭啓発活動を自粛し、中止と決断しました。さらに、私の念願でもある7月3日(土)予定の大規模イベント『ニッケパークタウンでのイベント活動』も、また1年間延期することを決めました。

しかしながら、『犯罪をなくし 社会を明るくする運動』の推進に関しては、書面や地域への広報活動をさらに、より強く推進していきたいと考えています。また私どもの目標でもある『犯罪をなくし社会を明るくする運動』の推進、そして実現をめざし、さらにさらにご協力ご支援よろしくようお願い申し上げます。



令和3年度 加古川保護区保護司会 組織表

R3.6.18現在

三役	(会長) 今川 裕									
	(副会長) 佐々木 秀雄 大路 一光 藤原 清尚 木下 恵介									
	事務局		事務局長		事務局次長		監事			
			木下恵介		西口三枝子		岡本常太郎		友政恵美男	
分会名	加古川市分会							稲美町分会	播磨町分会	
分会長	佐々木 秀雄							大路 一光	藤原 清尚	
ブロック名	加古川	野口	平岡	尾上	別府	加古川西	加古川北	稲美	播磨	
町名	加古川町	野口町	平岡町	尾上町	別府町	東神吉町 西神吉町 米田町	新神野・神野町 八幡町・平荘町 上荘町・志方町	稲美町	播磨町	
常務理事	増田真之	中川幹夫	穴田泰英	畑 邦夫	岸本園子	喜多山一洋	藤原真知子	吉岡泰毅	藤澤輝雄	
理事・監事数	2名	2名	3名	2名	2名	4名	5名	2名	2名	24名
保護司数	11名	7名	13名	10名	8名	11名	14名	10名	10名	94名
部会	総務部		研修部		犯罪予防部		更生援助部		広報部	
	部長	副部長	部長	副部長	部長	副部長	部長	副部長	部長	副部長
	藤原清尚	木下恵介	佐々木秀雄	加古博志	藤澤輝雄	畑 邦夫	今津俊郎	増田真之	吉岡泰毅	清水玲子 中田謙一



犯罪をなくし、再犯をさせない

社会を明るくする運動

BANBAN ネットワークス(株)のご協力を得て
啓発活動を行いました！



今年度、尾上町・畑常務理事のご協力を得て BANBAN ネットワークス(株)様と繋がることができ、『社会を明るくする運動』の啓発活動として、今川会長と木下事務局長が BANBAN ラジオ・86.9MHz「生ラテぶらんちょ」へ7月2日(金)収録、7月9日(金)放映というスケジュールで出演させていただきました。

東播磨地域エリアで約43万人の住民へ向け、FMラジオとサイマルラジオ(インターネット放送)などを通じて放送されている番組です。



打ち合わせの様子

番組開始前に、まず、番組のパーソナリティである北原真紀さん、スパイシー八木さんのお二人と事前打ち合わせを行いました。

保護司とは？という質問から始まり、短い時間の中ではありましたが、保護司、また『社会を明るくする運動』

について、加古川市で策定された「加古川市再犯防止推進計画」について等の説明で理解をしていただくことが出来ました。

出番までの間は収録の様子を別室で見させていただき、普段は見ることの出来ない裏方の現場に興味深々、いくつものモニターに映る番組の進行内容を見ながらリラックス♪

いざ、本番となり収録現場に入ると足の踏み場がないほどの機材とケーブルの多さに驚きながらスタジオのセットにスタンバイ。

8分ほどの放映時間分の収録という事で、本番は撮り直しなしの一発勝負！

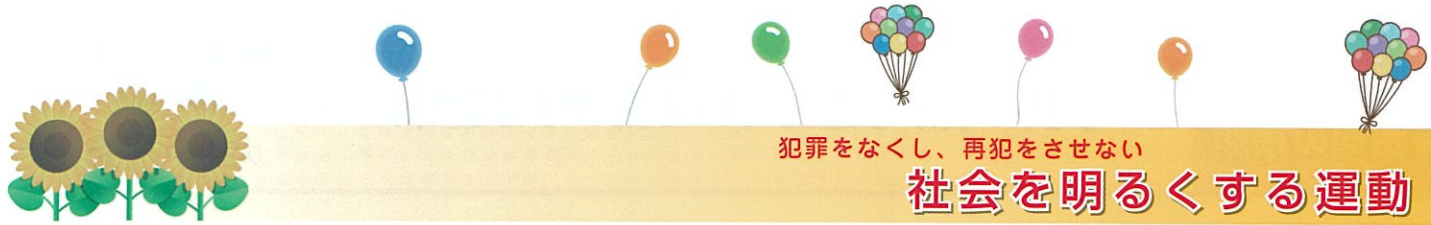
今川会長も木下事務局長も初めは少し緊張しながら、パーソナリティの北原真紀さんとスパイシー八木さんの上手な進行に、保護司や『社会を明るくする運動』についてお話しされました。

しかしながら、思っていた以上に時間があっという間に過ぎたため、伝えられなかった内容もあり、また次年度、違う形ででも紹介してもらえる機会をいただきたいという思いをもって、初めての収録を無事に終わられました。ご覧になられた皆様、いかがでしたでしょうか？

ご協力いただきました BANBAN ネットワークス様、北原真紀さん、スパイシー八木さん、有り難うございました。



収録後に



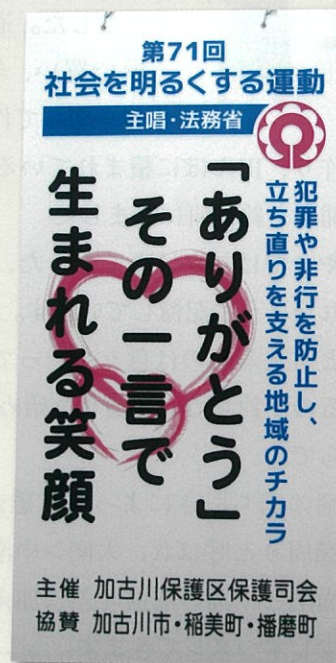
令和3年度『社会を明るくする運動』の駅頭啓発活動は、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止されました。

各ブロックごとに7～9月にかけてブロック内でのPR活動を行うこととしていますので、活動は次号にご紹介します。

啓発パネルへのご協賛ありがとうございました

加古川保護区各所にてご協力をいただき掲示されております

但陽信用金庫	加古川中央ロータリークラブ
(株)神戸製鋼所加古川製鉄所	加古川清流ライオンズクラブ
昭和住宅(株)	加古川中央ライオンズクラブ
住友金属鉱山(株)	加古川東ライオンズクラブ
三幸道路(株)	平荘町町内会連合会
田岡化学工業(株)	上荘町町内会連合会
住友精化(株)	別府町町内会連合会
多木化学(株)	加古川市・稲美町・播磨町
(有)滝一建材	加古川保護区保護司会



加古川保護区のちょっと良いとこ ①

Kakogawa Hogoku

浜田彦蔵は天保8(1837)年播磨町古宮に生誕。船乗りの家に育ち13歳の時に江戸に行き、帰途、暴風雨に遭い52日間太平洋を漂流。米国船に救助され渡米、新聞(イラストレイテッド・ニュース)に掲載され話題となりました。

ガス灯や蒸気機関車など近代文明を目の当たりにし、大統領と会う機会も得て民主主義に強く共鳴。カトリックの学校で学び洗礼を受け、ジョセフ・ヒコと改名。

元治元年(1864年)、外国人排斥の危険な風潮が広がる中、外国の実情を伝えたいとの強い思いから日本初の民間新聞『新聞誌』を発行。子どもにも読める平易な文章、定期的な発行、広告の掲載など今日の新聞の土台を築いたとして高く評価されています。



新聞の父ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)の生誕地は播磨町!!

撮影者 藤澤輝雄(播磨町)

ブロックの活動報告

加古川北ブロック活動記録

藤原 真知子

加古川北ブロックは名前のお通り、加古川市の一番北部に位置し、人口も少なく、加古川市全人口約 26 万人のうち（神野・新神野・八幡町・平荘町・上荘町・志方町）38,042 人で 6.8 パーセントです。面積は加古川市内 138.48 km² ありますが、北ブロック面積は 82.74 km² と田畑や山が多く、緑の多い静かな地域です。保護司の人数は 14 名で、神野・新神野 2 名、八幡 3 名、平荘 3 名、上荘 4 名、志方 2 名で構成されています。

どの地域もコロナ渦の影響で活動が制限される中、社明運動の駅頭啓発活動は中止になりました。社明運動についても各地域の実情に応じて、効果のある啓発運動をすることになりました。

北ブロックでは宮内保護司宅に集まり、話し合いをして、各町内会でチラシ配布をしていただくことになりました。チラシの不足分も印刷をして配布し、たくさんの方にいきわたるようにしました。『社会を明るくする運動』の一環である学校からの作文選出も、見土呂ウオーキングセンターの会議室に集まり、検討させていただきました。地域のそれぞれの学校の行事等は、全部中止になってしまっ



参加できませんでした。

対象者の面接については、私の場合、地域の特徴である田舎が少し災いして、知らない人が出入りしていると目立つこともあり、気をつかうことも多いので、夜暗くなってから来てもらい、訪問する時がほとんどで、対象者の方には負担が多いのではないかと心配していました。地域によって、それぞれの面接の在り方や、支援の方法は違うと思うのですが、近くの保護司同士の交流によって一人でどうしたらよいか不安を抱えるのではなく、話し合いをできる機会が多いほうが、これからこの仕事を安心して担っていただくことができるのではないかと思います。この地域は女性の保護司も少なく、これから活躍していただける方が増えてほしいと望んでいます。

鬼のはなし

加古川町 吉田 昌代

アニメ「鬼滅の刃」の爆発的な人気が続いています。映画化されると、興行記録を次々と塗り替え、主題歌は年末のレコード大賞を受賞し、関連グッズもなかなか手に入りません。

主人公炭治郎たちが鬼と化した人間を滅していく物語なのですが、成敗される直前に、鬼が人間だった頃の、ほんのささやかな家族との温かい記憶を思い出したりするのです。

私は、幼稚園の頃に「泣いた赤鬼」を読んで赤鬼さんや青鬼さんが可哀想だとびびり泣いた衝撃がトラウマとあって、「鬼」という存在が、今なおずつと気になってしょうがないのです。「鬼滅の刃」のアニメは、その琴線に触れたのかもしれない。

さて鬼については、ナマハゲなど日本全国に伝わる鬼文化が世界遺産になったのは記憶に新しいところです。それらの鬼は決して極悪な性分ではありません。むしろ私たちの怠け心や邪悪な心を叩き直してくれる存在です。



角川国語辞典では「鬼」①世にうらみをもって死んだ人。

②人間らしい温かさをもたない、冷たい心の持ち主。③自分を一つのことと賭けて、それ以外のことや人に対する心づかいを切りすてている人。④鬼ごっこなどの遊びで、人をつかまえる役の人。⑤「①つよい」「きびしい」「むごい」などという意味をあらわす。

⑥「異様に大きい」「大形の」などという意味をあらわす。鬼婆、鬼嫁などと使われますが、私はそのように呼ばれたことはありません。鬼は自分の外にいますのでしょか？自分の内にもいるのでしょか？それを追いつくのが、鬼追いであり、節分の「鬼は外、福は内」なのでしょう。

宗教における鬼の概念は、主に人間の心の中にある、邪念邪心を指すことが多いです。禍をもたらすコト、モノ、ヒト、ココロを鬼に擬化して、排除したり戒めたりしてきました。

モヤモヤとした、言葉や形としてとらえることができないう悪い嫌な心を自己ではない鬼に具現化した所に人間の智慧を感じてしまいます。

「白黒善悪はつきりつけようじゃないか」の風潮の強い昨今、鬼のひとかけらの優しい心に温かく鎮めてあげられる炭治郎になりたいと、おもちゃの刀を振り回している子どもたちを眺めて胸をなでおろすのは私だけでしょか。



その後の加古川保護区保護司会のあゆみ

感染対策を行い、開催しました

4月22日(木)に理事会が開催され、本来であれば総会に向けて、当日の進行について等の検討が行われるところでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、緊急事態宣言が発出されることも予想されるため、総会の中止および書面表決とすることが了承されました。書面表決の結果については、3ページでお知らせさせていただいております。



また、総会では神戸保護観察所の泉佳孝首席保護観察官にご講演をいただく予定でしたが、残念ながらご講演いただけなかったため、2ページでご講演内容の一部をご紹介します。

6月18日(金)午前には常務理事会が開催され、『社会を明るくする運動』について7月1日に駅頭啓発活動を行うことが話し合われましたが、感染拡大防止のため、後日、駅頭活動については中止となり、各ブロックごとの活動となりました。



令和3年度 加古川保護区保護司会 『社会を明るくする運動』作文コンテスト説明会

6月18日(金)午後より、社明作文審査委員を対象とした説明会を開催し、今年度も小中学校への作文コンテスト、高校へのエッセイコンテストを行うため依頼をすること、学校担当保護司が各担当校へ書類を持参し、趣旨説明を行うことなどの説明がありました。

また、作文については、『社会を明るくする運動』の趣旨を各学校に理解していただき児童・生徒に伝えていただくようお願いして欲しいと藤原委員長より要望がありました。



祝！瑞宝双光章受章 会長 今川 裕



今川会長が4月29日付で令和3年春の瑞宝双光章を受章され神戸新聞の取材を受けられました。



■■■ その他の分野での受章 ■■■

瑞宝双光章 播磨町 藤澤 輝雄
(警察功勞)

受章おめでとうございます。

保護司会行事 (令和3年3月～令和3年8月)

3月

6日 県代表者&保護司連合会
理事会

4月

5日 三役会、会計監査
22日 理事会
28日 総会(書面表決)

5月

10日 三役会
19日 第1回常務理事会
21日 保護者代表者会議(中止)
25日 県社明運動推進委員会(書面表決)
25日 社明実務担当者研修会(中止)
28日 第1回定例研修会(中止)

6月

7日 三役会
18日 第2回常務理事会
18日 社明作文説明会
28日 新任保護司研修会

7月

1日 社明駅頭啓発活動(中止)
各地域ごとに社明運動を実施する
2日 社会を明るくする運動啓発活動
(BANBANテレビ収録)9日放映
27日 会計実務担当者研修

8月

23日 三役会
27日 第3回常務理事会



新任保護司紹介

(令和3年5月18日付)

平荘町 紙本 秀子

この度、令和3年5月18日付にて保護司の委嘱を受けさせて頂くことになりました。

ご推薦いただいた皆様にご場をお借りして御礼を申し上げます。

私事になりますが、5年前に他界した父は新潟県で25年保護司を勤めさせて頂いておりました。離れて暮らしていましたので、特別に父から保護司の事について話をされた事は少なかったのですが、いつのまにか父の志、想いが私の心の中に積み重なっていったように感じます。

その想いに、これから保護司として勉強を始めていく私にどれだけの事が出来るかわかりませんが、諸先輩方からご指導ご鞭撻を頂き、少しずつ進んでいけたらと思います。

微力ではありますが少しでもお役に立てますように努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

稲美町 大西 秀樹

この度、副会長の大路一光様と藤原清尚様のお誘いを頂き、保護司を引き受けさせて頂く事になりました。一昨年の3月に退職を迎え、今までお世話になった地域に貢献が出来ればと考えていた時のお誘いでしたので、保護司の

仕事の内容がよく分からないまま気軽に引き受けました。今年になっても、コロナが収まらず5月に予定していた研修が無くなり、大量の新任保護司の資料と法務大臣からの委嘱状が届き、保護司としての職責の重大さを再認識いたしました。先輩方の温かい指導や助言を頂きながら1日でも早く皆様の一員になれるように研鑽を重ね保護司としての責務を果たして行きたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

稲美町 桃宇 吉高

この度、副会長大路様から、自治会長会で一緒に活動させて頂く縁で、お誘いをいただき、迷いもありましたが引き受けさせて頂くことにしました。

保護司の仕事、役割について知

識が乏しく不安な気持ちの中でのスタートとなります。しかし、保護司を引き受けさせて頂くことになりましたので、ポジティブにとらえ役割や歴史などの説明をお聞きし、学習をして保護司としての責務を果たしてまいります。

先輩保護司の皆様からのご指導ご助言をいただきながら、更生保護によって地域で少しでも力になれる様に努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

播磨町 井上 浩義

本年5月18日付で保護司を委嘱いただきました。昨年3月末まで高校の教員として38年間勤めてまいりました。コロナ禍で一斉休校のまっただ中ということもあり、離任式も歓送迎会もなく別れの節目を逸することとなりました。

このたびご縁をいただき、先輩の方々と新しい出会いをさせて頂くことを楽しみにしております。

私の祖父は長年教諭師を勤め、父も社会教育等に携わってきたこともあり、社会に奉仕することの大切さを身近に感じてまいりました。とはいえ、新任ということもあり、具体的に何をどのようにしたらよいかわからないことばかり。新しいお出会いの中で学ばせていただきたく、なにとぞご指導のほどよろしくお願い致します。

播磨町 植森 真奈

この度、令和3年5月18日付で保護司の委嘱を受けさせて頂きました。

以前から、福祉関係の仕事に従事し保護司については、机上で学んだ言葉とイメージだけが先行している状態でした。今回ご縁があ

り先輩保護司の方々から具体的な活動内容をお聞きすることができ活動に参加する一歩を踏み出すきっかけを頂きました。

播磨町は、やさしさや思いやりに触れる機会に恵まれ家族を育ててもらった場所です。私たち家族にとって「ふるさと」と呼ぶ大切な地域です。大切な地域に貢献できる活動をという思いからのスタートですが、先輩方の経験談から平坦な道ばかりではないと感じています。まずは、様々な背景を持った対象者が安心した関わりを継続し、孤立しがちな人達のアンカーになれるような活動を目指し微力ながら努力していきたくと思います。よろしくお願い致します。

満齢退任あいさつ

(令和3年5月17日付)



おかげさまの二十三年
東神吉町 芝田 京子

「芝田さん。保護司お願い
できんやろか」

当時、加古保護区保護司会
の会長をされていた北野泰成

先生より依頼され、高校の同窓会の会長・副会長として
常日頃お世話になっていた関係上、ご恩返しのつもりで、
お引き受けさせていただきました。

早いもので、それから23年余、5月17日をもって無事
満齢退任の日を迎えることができました。当初は、私の
ようなチャランポランな性格の者が務まるかな？と不安
もありましたが、面接者に恵まれていたおかげであまり
苦勞もせず、逆に、教えられることの多い幸せな時間を
送ることが出来ました。

保護観察は「面接に始まり、面接に終わる」と言われ
ています。今はコロナで面接もままなりません、皆様
方の持てる力を発揮され少しでも明るい世の中に成りま
すようご祈念申し上げます。

また、私ごとですが2020年秋の褒章において、藍綬褒
章を受章する榮に浴しました。これもひとえに、ご指導
くださいました観察官はじめ仲間の皆様のおかげと心よ
り感謝申し上げます。23年間、お付き合いいただき、有難
うございました。

編集後記

広報部に新メンバーが加わっていただきま
した。アイデアをいただきながら更に充実し
た内容をお届けできればと思います。



今号から保護司先生方にご協力をいただき、加古川保護区内
のちょっと良いところを紹介させていただく事になりました。

あまり知られていないけど、というような場所も是非ご紹介
いたしたいです。写真も保護司先生が撮影していただいたも
のを事務局までご提供いただくと助かります。

写真についての簡単な紹介も付けていただけると更に有難い
です。

令和3年度の前半は活動が思うように出来ませんでした、
後半は研修会や懇親会も予定されていますので開催されること
を願いつつ、誌面づくりに奮闘しています。

どうぞご協力を宜しくお願い申し上げます。

(広報 清水玲子)

任期満了保護司

(令和3年5月17日付)

加古川町 鏑木 良子
野口町 柘植 厚人

ご指導ご支援を賜りありがとうございました。

物故保護司

播磨町 長谷 和利 様

(令和3年5月10日)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

保護司数と保護観察・生活環境調整事件係属件数

令和3年7月30日現在

保護司数	保護観察				生活環境調整	
	少年		成人		少年 院	刑 事 施 設
94名						
男72名	1号	2号	3号	4号		
女22名	36件	5件	11件	26件	10件	53件

Kakogawa Hogoku

加古川保護区のちょっと良いところ ②

加古川市と高砂市の市境に位置する標高304mの山。
別名「播磨富士」とよばれています。
頂上からの初日の出がとても美しい。
たくさんの登山愛好者が挑戦されています。



令和3年 高御位山(たかみくらやま)からの初日の出

撮影者 木下 恵介(別府町)

発行所 加古川保護区保護司会

会長 今川 裕

〒675-8577 加古川市加古川町寺家町 177-12

加古川市総合福祉会館内

TEL 079-451-7868 FAX 079-451-8003

E-mail kakohogoku@outlook.jp